

はつらつ座安っ子



【学校だより: 令和2年11月 第11号】
豊見城市立座安小学校 校長: 具志直哉

なかよく かしく たくましく

～主体的に他者と協働し、豊かな学び方を身に付け、夢や目標を持って生きる子～

座安小学校の全職員は、子どもたち1人ひとりを認め、受け入れ、持っている「可能性を拓き伸ばす教育」の実践をめざし、全力でがんばります！

今一度基本に戻り、大切にしたいこと！

学校教育には2つの柱があります。1つは「学力の保障」、もう1つは「社会性の育成」です。

学力の保障については、コロナ禍の中、子ども達は9月から10月まで、7校時の授業にも意欲的に取り組みました。おかげさまで、法律で定められた授業時間をしっかり満たすことができそうです。毎日のように、各教室を巡り、授業観察していますが、子ども達の前向きな学ぶ姿に、いつも感心させられます。どの子も教師に目と体を向け、一生懸命です。座安小教諭の授業力のすばらしさと、子ども達の学びに向かう力等が相乗的に高め合っているのです。



日頃の学びの姿はテストでの成績や成果になっても表れます。

先日行われた学力調査では、本校は市内でトップでした！豊見城市は島尻地区でも上位であり、島尻地区は沖縄県内でも上位の成績ですので、座安っ子たちは沖縄県内でも上位に位置する成績結果であることになります。



しかし、テストの成績も重要ですが、得た知識や技能は活用してこそ意味あるものになります。友だちや仲間と自分の意見を伝え合ったり、改善策を見つけて課題を解決できる力にしていくことこそ大切です。得た知識・技能を宝の持ち腐れにはいけません。

そこで重要になってくるのが学校教育の2つめの柱「社会性の育成」です。

社会性の筆頭は、コミュニケーション能力だと考えます。その基本中の基本は「あいさつ」と「言葉づかい」でしょう。そしてコミュニケーションの次に、粘り強く最後まで、楽しんで「働くこと」「協働すること」が次に続くと思います。

学力と社会性がともに育つことで、子ども達一人一人が現在もそして将来、地域や社会の中で自分らしく幸せに生きていく力になっていくのだと思います。

今年度はコロナ禍の中、ほとんどすべての行事が中止になりました。運動会を中止にしたとき、子ども達の気持ち、保護者の思いを考えると胸が張り裂けそうでした。

まれなくなりました。安全・安心を最優先にし、コロナ禍の中でできることは何だろう、と毎日のように考えます。答えは不透明です。しかし確実に言えることは、こんなときだからこそ、基本に立ち帰ろうということです。子ども達にしっかりと学力を保障し、社会性を育成して卒業、そして進級させていきたい。教師としての足下をしっかりと見つめ、子ども達にとっての明るい未来を信じて、できることは確実に行って参ります。

あいさつあふれる座安小になったよ！！

まだ100点！！とまではいきませんが、座安っ子たちの朝のあいさつなどはとてもすばらしく、毎日気持ちの良い朝を迎えています。

先月号では、あいさつは座安っ子の弱点だと記載しました。もうそんなことはありません。明るく素直で前向きな子ども達だからこそ、わずか1ヶ月で見違えるようにあいさつ上手になりました。校長の肌感覚ですが、少なくとも約8割以上の座安っ子は「はっきりとした声で」「相手の目を見て」「立ち止まっておじぎして」あいさつしてくれます。



先週校長室に来客がありました。開口一番「座安小の子どもたちはあいさつが上手ですね。こんにちは、何かお手伝いしましょうかと明るく言われて、校長室まで案内されたんですよ」と喜んでいました。私まで嬉しくなりました。これもご家庭での保護者の方々のご協力と先生方の学級での指導の賜です。子ども達は、社会性の基礎もしっかり育っていますよ。

社会性の育成（生徒指導）は一点突破です。今後は、計画的に「言葉づかい」や、「働くこと（協働）」についても、焦点化して育成していきたいと考えてます。

授業中に行った、6年エイサーの様子です！

無観客の運動会さえ中止となりましたが、6年生のエイサーなどの演舞は、毎年体育の授業で行っていることです。今年も授業中に行っていたので、せっかくならと、5年生を招いてお披露目をしました。6年生の生き生きとした表情を見て、少しは行事の目標である『子ども達の学校生活に活気や潤いを与えること』（第9号参照）に近づけたのではないのでしょうか。



おめでとう座安フレンズ男子見事3位！

先日、校長室に嬉しいお知らせがありました。座安フレンズ男子の島尻地区小学生バレーボール夏季大会3位入賞の吉報です。懸命に練習に励んだ成果です。玄関正面の陳列棚に並べた賞状とトロフィーが輝いています！

